

記者会見

日 時 令和7年11月18日(火)

午後1時から

場 所 市役所3階 大会議室

1 令和7年度12月補正予算(案)の概要について

- ・12月の補正予算案のポイントは3点です。
- ・1つ目の「あそびの創造・子育て環境の充実」は、民間の提案を受けて企画コンペを行った結果、既存の民間施設を活用した全天候型のこどもの遊び場を作るためのものです。
- ・2つ目の「生産基盤のサポートと農を守る取組み」は、鳥獣被害対策実施隊の活動報酬の総額を増やし、鳥獣害対策を強化するものです。
- ・3点目の「健やかで安心できる居場所づくり」は、障害福祉サービスや生活保護事業などの各種扶助費の増額や、公民館への防犯カメラの整備、小学校の特別支援教室の改修などを行うものです。
- ・この3本の柱に加え、今年度の人事院勧告に基づく職員給与の改定などを行った結果、一般会計の補正額は、7億3,975万9千円で、昨年度の12月補正予算額 7億6,607万7千円とほぼ同額になっています。
- ・今議論されている国の経済対策は、まだ内容が固まっていないので、今回の補正予算には対応していません。明らかになった段階で、補正等の対応をする必要が出てくると思います。
- ・事業について、順に説明します。
- ・こどもの遊び場づくり事業、予算額は2,000万円です。
- ・民間から提案のあった内容を審査し、相手方が決まりました。
- ・既存の民間施設、武生楽市の一角落を活用し、暑い日や雨・雪の日でも安心して遊ぶことのできる屋内の遊び場を作るものです。
- ・これは県の制度を活用するのですが、県の制度が来年度末で終了します。これに間に合わせるため、新しい施設を作るのはなく、既存の施設を活用します。
- ・今回の遊び場については、障害の有無や文化の違いなどにとらわれることなく、一緒に学び、遊び、つながる、インクルーシブな空間を目指します。
- ・今年度は、設計及び準備工を行い、来年度に遊具の製作、設置、施工を行います。
- ・2年間の総費用は1億円を想定しており、全額、県の支出金を活用します。
- ・なお、利用料金は、大人も子供も無料です。
- ・来年の7月中旬ごろ、夏休み前には供用する方向で準備をしていきたいと思っています。
- ・武生楽市の2階遊び場の面積は、400m²程度です。

- ・越前市のブランドである「しらやま西瓜」の選果場の設備が故障しており、大変苦労をされています。
- ・県のお金を活用して、設備の更新に要する経費を支援します。
- ・今回故障した設備には、スイカの直径を測定し、自動的に振り分ける機能があります。
- ・それが壊れ、人手と手間がかかるため、来年度の出荷時期に間に合うよう、今から予算をもって更新するものです。

- ・3点目は、農作物鳥獣害防止対策推進事業です。
- ・鳥獣被害対策実施隊の活動報酬を増額するもので、予算額は321万2千円です。
- ・ニホンジカの生息数が増えており、被害がどんどん拡大しています。
- ・その中で、県が今年度、市町ごとの捕獲目標数を、年間654頭から800頭に増やしています。
- ・これに合わせ、活動報酬の総額を増やすものです。
- ・実施隊を公募した結果、隊員数も増え、例年に比べて捕獲数も伸びています。
- ・この調子で対応していけば、少し高い目標ですが、年間800頭という目標も実現ができるのではないかと思います。

- ・地区公民館施設管理事業については、公民館に防犯カメラをつけるものです。
- ・最近、公共施設で色々な事件、事案が発生しており、今年8月には、静岡県内の公民館で殺人事件が発生しました。
- ・こうした中、公民館長さんから「安全確保のために防犯カメラをつけて欲しい」との声が上がっているため、公民館の適切な場所に1台ずつ付けるための予算をもつものです。
- ・ただ、防犯カメラについては、利用される方のプライバシーの問題があります。
- ・地元の合意形成が十分にできた段階で付けるようにしたいと思っています。
- ・録画映像は、事件が発生した場合にだけ使うことを前提とし、周辺のお住まいの方のプライバシーにも十分配慮したいと思います。

- ・吉野地区は人口が増えており、昨年度は、12月補正でパソコンルームを普通教室に改修する予算を設けました。
- ・来年度は、特別支援学級の児童数が増えると見込んでおり、今までは特別支援教室が足りなくなることから、現在の図工準備室を特別支援教室に改修するものです。

2 認知症予防及び健康づくり推進のための三者連携協定について

- ・認知症予防及び健康づくり推進のための三者連携協定を、11月26日に、越前市、国立長寿医療研究センター、株式会社ほっとリハビリシステムズの三者で締結します。
- ・高齢者が増えると、脳機能の低下、いわゆる認知症の人の割合が高くなってきます。
- ・体もちろん大事ですが、それについてはフレイル予防を進めてきました。

- ・今回は、脳機能、認知機能の低下を招かないようする点を特に意識しています。
 - ・認知機能が低下し、筋力も衰えてくると、自立した生活を送ることが難しくなります。
 - ・人生100年時代を元気に過ごせるよう、脳と体を元気に保つためのプログラムを実施し、その効果を検証します。
 - ・まずチェックをして、それに対応するプログラムを実行して、その結果を検証するものです。
 - ・検証結果を踏まえて、今後の色々な政策につなげていきたいと考えています。
-
- ・三者の役割について、越前市は、脳の健康チェックアプリを市民の皆さんに普及します。
 - ・認知症になる前の早い段階、軽い段階で、早期発見をし、支援につなぐ仕組みを作っていくことが市の役割だと思っています。
 - ・このチェックアプリにより発見された軽度認知症の方を対象に、認知・運動機能改善のための教室でトレーニングを行います。
 - ・DXを活用した運動プログラムと、脳トレアプリを使ったトレーニングを行い、症状が改善されたかをチェックします。
-
- ・事業全体については、国立長寿医療研究センターから知見を提供していただきます。
 - ・脳の健康チェックアプリも、国立長寿医療研究センターから提供していただくものです。
 - ・軽度認知症を改善するための教室の運営についても、助言をいただきます。
-
- ・ほっとリハビリシステムズさんには、介護が必要な人がたくさんおられます。
 - ・そのような人に対してチェックをしてもらい、トレーニングを行い、機能が改善したかをチェックする、そのような循環の仕組みをつくり、成果が出たら、これを市民全体、市内全体に広げていくことを考えています。
-
- ・体については、プレフレイル、フレイルにならないように運動をするということが大分広がっています。これをさらに、脳機能にも拡大するものです。
 - ・体が元気でも、脳機能の低下によって生活に支障をきたしたり、周りの人が対応に追われたりすることがあります。
 - ・フレイル予防と脳機能改善をぜひとも進めていきたいと思っています。

質疑応答

Q

- ・全天候型キッズパークの設置場所を、武生楽市としています。
- ・既存の民間施設を活用することが前提なのかもしれません、子どもの遊び場といえば、武生中央公園という素晴らしい施設があります。そこに設置することができなかつたのでしょうか。

- ・例えば、大河ドラマ館として利用されていたまさかりどんの館の一部を改装して使うなど、1億円あれば相当の施設になると思います。
- ・こどもが集まる場所として思い浮かぶのは、やはり、武生中央公園ではないかと思います。
- ・武生市は、越前たけふ駅との中間地点にあって、駐車場もたくさんあるので、こどもが集うのに良いところだと思いますが、なぜ武生中央公園ではなかったのかをお聞きかせください。

A

- ・地域バランスの問題です。
- ・武生中央公園温水プールの上には、こどもの遊び場があります。
- ・しかし、日野川の東側にはこどもの遊び場がなく、そのような場所が欲しいという声が市民のみなさんから届いています。
- ・そのため、今回は日野川の東側でよいのではないかと考えました。
- ・武生中央公園には新しい建物を建てるスペースはありません。
- ・まさかりどんの館は、色々な目的で使用されており、例えば、たけふ菊人形でも、きくりん市場やステージイベントのために使われており、その機能を損なうわけにはいきません。
- ・温水プールの2階には、すでに相当のスペースのこどもの遊び場があります。
- ・そのため、今回は、市全体のバランスを考えて、日野川の東側に作ればよいのではないかと考えました。
- ・今回、2件の公募がありましたが、その2件ともが、日野川東側の提案でした。
- ・公共施設を活用できないという点は、募集を開始した段階で、そう判断をしています。
- ・その中で、実際に応募があったのは日野川東側であり、審査員の方にも、市内の地域バランスは十分配慮していただいていると思っています。
- ・市の真ん中にはアル・プラザ武生の上階に、西側には武生中央公園温水プールの2階に遊び場があります。
- ・次、東側に作っていくというのは、市全体のバランスからみて適當だと思います。

Q

- ・こどもの遊び場には、具体的にどのような遊具を設置するのでしょうか。

A

- ・「障がいのあるこどもも、異なる文化のこどもも、全てのこどもが一緒に遊べる、学べる、つながる、インクルーシブな遊び場」というコンセプトの空間を求めていました。そのようなインクルーシブな遊具の設置等を考えています。

Q

- ・例えば、すべり台などを設置していくのでしょうか。インクルーシブ用の遊具があるということでしょうか。

A

- ・インクルーシブ用の遊具があると聞いています。
- ・今回提案が採用されたジャクエツさんが全国的に展開しているインクルーシブな遊具は、独特的の形をしています。
- ・これまで、従来にないタイプの遊具を開発しており、今回も、この場所に合うような遊具を提案していただき、最終的に設置していただくことになっています。

Q

- ・設置する遊具の数は決まっていますか。

A

- ・具体的に、どこに何を配置するというのは、これからになりますが、来場者を飽きさせない工夫として、定期的に遊具を入れ替えるという提案を受けています。
- ・遊具の配置や種類は、今年度行う設計の段階で決まってくると思います。
- ・遊具の製作は、令和8年度に行います。
- ・これまでに展開している遊具も使われると思いますが、既存の遊具を買って並べるということではなく、作り上げていくことになると思います。

Q

- ・地区公民館の防犯カメラについて、市内すべての公民館に設置するということでしょうか。

A

- ・17地区各公民館に、1台ずつ整備する予定です。
- ・17地区公民館に設置するための予算を確保しています。
- ・地元が設置を望まない場合、合意が得られるまでは無理に設置することはありません。

Q

- ・カメラ 17 台分の予算ということでよいでしょうか。

A

- ・17公民館のうち、3公民館については、既に持っている耐震改修工事予算の範囲内で対応します。
- ・今回の補正予算は、残り14公民館分の予算です。

Q

- ・3公民館については、改修工事のための予算の中に、防犯カメラ設置の予算が含まれているということですか。

A

- ・当初予算の中で、入札等による差金が発生しており、その内で対応できます。
- ・既決予算で対応が可能なため、別途補正予算は持たなかったということです。

Q

・いつごろから設置するのでしょうか。

A

・地元との調整ができたら、という条件はありますが、12月補正予算の議決をいただいた後、年明け頃から発注等を始めると思います。

Q

・鳥獣被害対策について、捕獲計画数を654頭から800頭に増やすのは、今年度中の話でしょうか。

A

・昨年度まで654頭だった計画数を、今年8月に見直し、800頭にしています。
・当初予算では前年度と同数を想定していましたが、途中で県の計画数が増えたため、市としても、それに合わせて予算を持つということです。